

自薦

氏名	職業	年齢 (歳)	性別	経歴		農業経営の状況				認定農業者 の有無	農地利用最適 化推進委員へ の申込の有無	応募の理由
				年月日	職名・役職等	従事年数	従事日数	耕作農地面積(m ²)	作付け作物			
川辺 貢	派遣 職員	71	男	S52年5月1日～ H31年3月31日	県農林水産部勤務	-	-	-	-	無	無	<p>私は、昭和52年に国立大学の農学部を卒業して同年に他県農林水産部に採用されました。農業部門を中心に43年間、農業技師として本庁及び出先機関に勤務し、常に農業の最先端現場で活動してきました。</p> <p>現在の農業は次世代の担い手を確保するのが大きな問題で、そのために担い手への農地集積を促進するのが喫緊の課題です。農地法に関係する農業委員会の果たす役割は益々重要性が増してきていると思います。私も県の職員として農地集積計画を市町村職員と幾度も作成してきました。その重要性和難しさを理解しているつもりです。</p> <p>在職中に二度の海外派遣研修の機会に恵まれました。1回目は、平成9年、県の自主企画研修制度を利用して、海外のグリーンツーリズムを体験しました。具体的には単独、英国での農家民泊を体験し、体験レポートをまとめて公表し農業農村の多面的機能性の重要性を訴えました。</p> <p>2回目は、平成11年、隣国の台湾でのマンゴー等の果樹栽培技術研修で地域特性に応じた栽培技術の重要性を学びました。平成24年に国家資格の農業部門技術士の資格を取得しました。取得した技術士の資格を生かして技術研修会の講師を務めたり、技術発表会審査員として県及び市町村の農業技術職員の資質向上に努めてきました。</p> <p>上尾市は田園都市から工業都市、そして住宅都市へと変化を遂げながら埼玉県の中核都市として発展してきました。その都市化の過程で農業者や農地の減少は見られたものの、まだ800haもの農地が農業振興地域だけでなく市街化区域にも存在しています。残された貴重な農地を如何に有効に使うのか知恵を絞る必要があると思います。都市と農村・農業との共存の方策を農村住民だけでなく都市住民も含めて模索する時代にきていると思います。</p> <p>私は、これまでの経験を生かして農業者以外の中立委員として応募します。</p>
				H31年4月10日～ 令和4年3月31日	民間コンサルタント技術顧問							